

令和元年度

福岡県移住者子弟留学報告書

2019 Exchange Students Program for
Descendants of Immigrants from Fukuoka Prefecture

C o m p l e t i o n R e p o r t

Fukuoka International Exchange Foundation

公益財団法人福岡県国際交流センター

02

シルバー 石井 ジエゴ (ブラジル福岡県人会)

九州大学システム情報科学府

07

池尻 明美 カリナ (ブラジル福岡県人会)

九州大学薬学府

13

江藤 エンヒッケ イチロウ (ブラジル福岡県人会)

九州大学システム情報科学府

22

坂本 サチ アンドレア (コロンビア福岡県人会)

純真短期大学食物栄養学科

29

岩瀬 ケービン 司 (在ボリビア福岡県人会)

第一自動車大学校自動車整備士コース

37

杉野ニコラス (アルゼンチン福岡県人会)

九州大学システム情報科学府

44

シバタ サウリルイス アンヘル コイチ (ペルー福岡県人会)

九州産業大学造形短期大学部

52

寺本 飯田 利生 アルツーロ (メキシコ福岡県人会)

福岡調理師専門学校調理師本科

61

堀 大志 (南加福岡県人会)

西南学院大学留学生別科



ブラジル福岡県人会
シルバー 石井 ジェゴ
九州大学システム情報科学府

去年の4月に福岡県移住者子弟留学生制度で日本に来てから早10月間が過ぎました、私はブラジルで生まれて2歳半位の時に両親が出稼ぎで日本に来たさいに家族全員で来ました。幼稚園までは岐阜県にいました、その後小学校からは滋賀県に住んでおりブラジルに帰る15歳位までいました。幼い時に日本で過ごしたので最初に覚えた言語が日本語なので普通に理解出来るのですが、やはり大人として生活するのは違い色々となれるのに苦労しました。ブラジルでは母と姉と一緒に住んでいましたが日本では県費留学生の皆と一緒に寮に暮らし、福岡県に来るのは初めてで日本でする全ての経験が新鮮でこの留学で私の人生観が変わりました。

2018年にブラジルのサンパウロテクノロジー大学 (Faculdade de Tecnologia de São Paulo - FATEC) でシステム分析・開発のコースを卒業してから日本に来て九州大学のシステム情報科学府の情報知能専攻で人工知能 (AI - Artificial Intelligence) について学びました。

母国のブラジルでは色々なボランティア活動をしていまして、そうしているうちに人の為になる物作りをしたいと思うようになり、特に私の考え方を教えてくれたのが ABEUNI と呼ばれるボランティア団体に参加し始めてからです、ここではブラジルの貧しい人々に簡単な健康診断と歯の治療を提供していました。

ここで他では経験できないようなことをしました、血圧を測ったり糖尿病検査の為に指をさし血から糖分を計ったりしました、私の専攻がコンピューター (IT) なの大学か違うところでは学べないことを色々しました、私がボランティア活動をし始めた一番の理由がシャイな性格を少しでも変えたいという考えからでしたが色々な人と出会ったり話す機会がありとても良い経験でした。

ブラジルでの経験を経て日本に留学する際には人工知能について学びたいということは決まっておりましたがボランティアをした際に医療関係の AI に興味を持つようになり、九州大学の研究室では病院やクリニックで使われる情報技術 (IT - Information Technology) を学びました。

私が通学していた場所は住んでいる寮から九州大学の伊都キャンパスへは片道二時間かかるので週に授業がある日か研究室ゼミがある日に2回か3回ほど通っていましたが、その他の時間は今住んでいる寮で一人で勉強したりしてました。

この一年で留学の一環で色々な福岡の文化体験がありました、花火大会、陶芸体験、いちご狩り、登山、餅つき、ホームステイ、花見、このほかにも色々な事業がありました。前々からやってみたいと思っていたので特に印象に残ったのは陶芸体験でした、実際に陶芸をしてみると難しく教えてくださった先生は五十年の経験があると聞いて驚いたのをよく覚えています。

他にも行われた事業は県人会担い手育成招へい事業と第10回海外福岡県人会世界大会がありました。

海外福岡県人会世界大会は世界中の様々な国にある福岡県人会から皆さんが福岡県に集まり行われました、元県費留学生たちも沢山来られて県費留学の50周年を祝いました、私たち今年の県費たちは感謝の意を込めて皆でKiroroのベストフレンドを歌いました。

県人会担い手育成招へい事業は世界中の福岡県から11歳の子供たちを福岡県に招き自分たちのルーツである福岡を体験するという事業です、子供達と引率者達にとってはこの日本での10日間はハードスケジュールでした10日間皆さんと一緒に寝泊まりして色々な活動に参加しました、この事業で私にとって特に印象に残ったのは小学校訪問でした、日本の小学生と触れ合う機会があり子供達にとっては一生忘れられない経験です、学校で自分の国について発表したり、日本の伝統的な遊びを教えてもらって一緒にやったり、海外では余りしない学校の掃除をグループに各担当の場所に行き助け合って綺麗にしたり、給食の時間に学生達がエプロンに着替えて当番制で皆が一人一人それぞれの責任を負って食べ物をよそったりして準備してくれ全員が一緒に「いただきます」と「ごちそうさまでした」をしたのが全部が良い経験でした、そして私にとっては小学校訪問では日本語からポルトガル語の通訳を皆さんの前でマイクを使ってする機会を頂いて良い経験でした。

この一年で色々な経験を出来たのも様々な人たちのおかげです特に国際交流センター、家族会、国際ひろばの皆様の手助けがあっただけでこそです、迷惑をおかけしたことも沢山あると思いますが、私たちを支えてくださって本当にありがとうございました。

このプログラムが終わってからの事はまだはっきりとは決まっていますが帰国後は日本での色々な経験を生かして人々に伝えて行きながらブラジル福岡県人会を手伝いし支えていきたいです。

It has been over 10 months since I came to Japan on the Fukuoka Immigrant Student and Student System in April last year. I was born in Brazil and my family moved to Japan when I was about two and a half

years old when my whole family came to Japan. I came here. I was in Gifu prefecture up to kindergarten, then lived in elementary school in Shiga prefecture and was about 15 years old returning to Brazil. Since I was young when I was in Japan, the first language I learned was Japanese, so I could understand it normally, but I also struggled to be different in living as an adult. I lived with my mother and sister in Brazil, but in Japan I lived in a dormitory with all prefecturally-sponsored international students, and it was my first time to come to Fukuoka prefecture. The view has changed.

After graduating from the system analysis and development course at Faculdade de Tecnologia de São Paulo-FATEC in Brazil in 2018, came to Japan and studied AI in the Department of Information and Intelligence at the Graduate School of Systems and Information Science at Kyushu University. - Artificial Intelligence).

In Brazil, my home country, I have been doing various volunteer activities, and while doing so, I came to want to make things for people, especially the one that changed my way of thinking is called ABEUNI. Since I started to join a volunteer group, it provided a simple physical checkup and dental treatment for the poor in Brazil. I did things that I could not experience elsewhere, I measured blood pressure, pointed my finger to measure glucose from a blood test, and learned that my major was computer (IT) or a different university. I did a lot of things that I didn't, the main reason I started volunteering was because I wanted to change my shy personality a bit, but it was a great experience to meet and talk to a lot of people. After studying in Brazil after studying in Japan, I had decided that I would like to learn about artificial intelligence, but when I volunteered, I became interested in medical AI. In the laboratory of Kyushu University, I learned information technology (IT-Information Technology) used in hospitals and clinics.

The place I went to school was two hours each way from the dormitory where I live to Ito campus of Kyushu University, so I went twice or three times a day on a class or a laboratory seminar in a week. At other times, I was studying alone in my dormitory.

In the past year, there were various Fukuoka cultural experiences as a part of studying abroad, such as fireworks festival, pottery experience, strawberry picking, mountain climbing, mochi, homestay,

cherry blossom viewing, and many other businesses. I was particularly impressed with the pottery experience because I wanted to do it for a long time, but when I actually tried pottery, the teacher who taught me was surprised to hear that I had 50 years of experience I remember well.

Other projects that were held included the Fukuoka Prefectural People's Association Invitation Program and the 10th Overseas Fukuoka Prefectural People's Association World Convention.

The Overseas Fukuoka Kenjinkai World Congress was held in Fukuoka Prefecture, where everyone from the Fukuoka Kenjinkai in various countries around the world gathered. We, our prefectural government, sang Kiroro's best friend with gratitude.

The Prefectural Association Leaders Invitation Program is a project in which 11-year-old children from Fukuoka Prefecture around the world are invited to Fukuoka Prefecture to experience their roots in Fukuoka. It was a hard schedule for 10 days. I slept with you and participated in various activities for 10 days. The most impressive thing for me in this project was a visit to elementary school, a chance to meet elementary school students in Japan and children. It will be an unforgettable experience for all of us, we will talk about our country at school, teach Japanese traditional play together, and clean up the school which is not abroad in the group at each responsible place. Help each other to clean, and during lunchtime, students change into aprons, and on a duty system, everyone is responsible for each and every one of them and prepares for food. It was all a good experience to have "I have" and "I had a feast" together, and for my elementary school visit, I had the opportunity to use a microphone to translate Japanese to Portuguese in front of you. It was a good experience.

Thanks to the various people who have made various experiences in the past year, especially with the help of the International Exchange Center, Family Association, International Plaza, I think that there have been many inconveniences, Thank you very much for supporting us. It is not yet clear what has happened since the end of this program, but after returning to Japan, I would like to help and support the Fukuoka Prefectural People's Association in Brazil while making use of my various experiences in Japan.

シルバ石井ジエゴ君は、彼の家族のルーツが福岡県であることから、福岡県の環境や文化に大変興味を持ち、ブラジルからの福岡移住者子弟留学生を希望し、九州大学では私の研究室に所属していました。大学では、主に学部の講義を受講し、専門知識を学ぶことに努めていました。ジエゴ君は日本語を流暢に話すことができ、日常会話は全く支障がないほどです。

一方、日本語（特に漢字）を使って文章を書くことはほとんど経験がありませんでした。九州大学の講義は、ブラジルの大学と内容が異なることや、依然として主に日本語で行われていることから、例えば専門用語や文章など、講義中で理解するのは難しかったようです。

しかし、ジエゴ君は、講義後に自主的に復習して講義の理解を深める、また、日本語能力の更なる向上のため大学の日本語の授業に出るなど、日々努力をしていました。

ジエゴ君が住んでいるところから大学まで、公共交通機関を使って片道2時間ほどかかることと、大学講義を受けていたことから、研究室の活動に参加するのは厳しい状況でした。

しかし、空いた時間を見つけて可能な限りゼミに参加し、勉学に勤しんでいました。また、講義や研究室以外の活動も積極的に行い、その一つとして、KUFSA (Kyushu University Foreign Students Association 九州大学留学生会) に参加し、色々な国の人達と交流を深めています。また、タンDEM学習と呼ばれる活動に参加し、母語の異なる2人がペアになり、英語で会話しながらお互いの得意な言語や文化を学ぶことを行っています。

このように、ジエゴ君の勉学に対する意欲と行動力は優れ、それにより福岡に来て様々なことを学び経験し、人間的に大きく成長してきました。帰国してからも、自身の資質と才能に磨きをかけて、また日本とブラジルの架け橋として活躍してくれるものと信じております。



ブラジル福岡県人会
池尻 明美 カリナ
九州大学薬学府

この1年間の留学について

私は人生で二度目の日本です。私が最初に来たのは3年前で、私の周りの人々はほとんどブラジル人でした。私は3か月間アルバイトをしていて、日本を深く知ることができませんでした。薬学部を卒業し、ジョンソン・エンド・ジョンソンでインターンシップを終えた後、私は再び日本に来ることを決めました。今回は、県費留学生として、私は日本の文化や社会についてもっと知りたいと思っています。また、薬局の分野についてもっと勉強をしたいです。日本に1年間住むことを楽しみにしていました、なぜなら小さい頃からの夢で、3年前に県費留学生として来た姉からたくさんの良いことを聞きました。

今年の福岡県費留学のプログラムは、ブラジル、ボリビア、アルゼンチン、メキシコ、コロンビア、ペルーとアメリカです、ブラジルから3名、他の国から1名が参加しており皆あわせて9名です。日本に来る前に、男性が7人、女性が2人になることを知っていたので、仲良く出来るか心配していました。皆と会ってみるとすぐに仲良くなれ思った以上に楽しいおかげでブラジルの家族や友人から離れていても、家にいるように感じることができました。今年はとても楽しかったし、彼らと一緒にこのプログラムに参加できて本当に感謝しています。日本で様々な困難な時期の時に私を助けてくれた人たちであり、今年も日本で友情を保ち続けることを願っています。

学生だけでなく、福岡で私たちの面倒を見てくれた人たちにもとても感謝しています。福岡県国際交流センターと家族会の皆様は、日本での体験を、非常に面白くて楽しいイベントでいい経験と思い出になりました。皆様に心から感謝しています。特に、私にとって最も印象的だったイベントは、多くの国の子どもたちや指導者たちの子弟招へいと言うイベント、夏祭り、世界中のさまざまな福岡県人会から多くの人たちを集めた世界大会と言うイベントと茶道でした。子弟招へいでは、元県費留学生とたくさんの子供たちに会い、12日間一緒に過ごした多くの活動を楽しみました。夏祭りは日本で唯一のイベントで、浴衣を着て美しい花火をたくさん見ることができました。世界大会は最も期待されているエキサイティングなイベントの1つであり、さまざまな国の多くの人々が1つのイベントに参加することができたのはユニークな経験でした。子弟招へいと同じで、私は多くの元県費留学生に会うことができ、私は県費留学のプログラムの50周年を祝うことができました。そして、茶道は日本の文化の繊細さと本質を感じる機会でした。着物を着ることもできました。

この1年間で、自分のルーツについてもっと知ることができました。私は福岡に住んでいる親戚に会いました。彼らはこの一年間私の面相を見てくれて、とても感謝しています。私は親戚と多くの時間を過ごすことができました。私たちは鹿児島や佐賀などの多くの場所に行き、日本に住んでいてブラジルに移った私の家族についての物語の話をしてくれました。日本語が上手く話せなくても、とても親切でした。

私は九州大学薬学部の研究室で研究をしています。毎日研究室に行き、多くのことを学び、多くの実験を行い、日本人と外国人の友人（タイ、マレーシア、台湾）を作ることができ、鹿児島黒酢工場を訪問し、12月に京都で開催された学会で私の研究を発表することができました。今、私は論文を書くために最後の実験をしています。九大のような日本の有名な大学によって書かれた論文を持つことはとても光栄です。私を支えてくれたすべての人に感謝します。私は多くのことを学び、成長したと思います。

県費留学生として、目標のいくつかを達成することもできました。この1年間、私は九州大学の日本語の授業で日本語を少ししか学ぶことができませんでした、なぜなら研究室にいる時間が長かったので勉強することができませんでした。それでも、12月に、N3の能力試験を受けようと思いました。もう一つの忘れがたい目標は、8月に富士山に登ることでした。これは私の人生で最も困難な経験の1つであり、忘れられないものであり、信じられないほどでした。上るのに12時間、下るのに5時間かかったので、すごくつかれました。日本文化、好奇心、日本社会についても学ぶことができ、新しい皇帝と一緒に平成から令和への変化を見ることができました。日本の一部の州を知っており、この1年間のすべての課題を経験して、自分自身や自分のルーツについてもっと知り、さまざまな国の人々に会うことができました。私の面倒をみて下さったすべての方々、県費留学生、福岡県国際交流センターと家族会の皆さん、福岡の私の家族、大学の先生と私と同行した博士課程の学生に心から感謝しています、そしてブラジルの福岡県人会と日本に来るために私をたくさん支えてくれたブラジルの私の家族に感謝します。ブラジルと日本の関係に貢献し続け、私が学んだことを応用し、他の人を助けることができることを願っています。

I am in Japan for the second time in my life. Last time that I came it was three years ago and the people around me were mostly Brazilians. I worked in a part-time job for three months, but couldn't get to know Japan so deeply. After graduating from pharmacy and finishing my internship at Johnson and Johnson, I decided to come to Japan once again. This time as Kenpi ryūgaku student and I aimed to know more about Japan's culture and society, also study more in the area of pharmacy. I was looking forward to living in Japan for a year, which has always been a dream for me since I was little and I heard a lot of good things from my older sister, who came as a Kenpi ryūgaku student 3 years ago.

This year's Fukuoka Kenpi ryūgaku program came 9 people from Brazil, Bolivia, Argentina, Mexico, Colombia, Peru and the United States countries, with 3 people from Brazil and 1 from each of the other countries. At first I was very worried if we would get along, because before I came to Japan, I knew there would be 7 men and 2 women, which is very rare, because usually most of people are women. To my relief, we got along very well since the beginning and thanks to all of them I could feel like being at home, even away from my family and friends from Brazil. We had so much fun together during this year and I am really grateful to be able to participate in this program with them. These are people who have saved me at

various difficult times in Japan and I hope that we keep our friendship even after this year in Japan.

Not only the students, but I am also very grateful to the people who took care of us in Fukuoka. The Fukuoka International Exchange Foundation and Kazokukai people have made this experience in Japan even more amazing with many events that were very interesting and fun. I would like to thank everyone immensely. In particular, what was most memorable to me were the event with children and leaders from many countries called Shitei Shouhei, the summer festival, the event that brought together many people from various Fukuoka kenjinkais around the world known as Sekai Taikai and the tea ceremony. At Shitei Shouhei, we met some ex-Kenpi ryūgaku students and a lots of kids and there were a lot of activities and fun during 12 days we spent together. The summer festival was a unique event in Japan and we were able to wear yukata and see many beautiful fireworks. The Sekai Taikai was one of the most anticipated and exciting events and it was a unique experience to be able to meet so many people from various countries joined in a single event. As Shitei Shouhei, I could met many ex-Kenpi ryūgaku students and I was able to celebrate the 50th anniversary of the Kenpi ryūgaku program. Finally, the tea ceremony was an opportunity to feel the delicacy and essence of Japanese culture. We could also wear kimonos which were really wonderful.

During this one year, I got to know more about my roots. I met my father's family who lives in Fukuoka and many of them are close to my family from Brazil until now. They took good care of me during this one year and I thank them very much. I was able to spend a lot of time with them, we went to many places like Kagoshima and Saga and met some stories from my family who lived in Japan and then moved to Brazil. Even though I can't speak Japanese very well, they were very kind.

During that one year, I did research in a laboratory at the Kyushu University's Faculty of Pharmacy, just as my older sister did three years ago. I went to the lab every day, learned a lot, did a lot of experiments, I was able to make some Japanese and foreign friends (Thailand, Malaysia and Taiwan), visited a kurozu factory in Kagoshima, and was able to present my research at a congress in Kyoto in December. Now I am doing the latest experiments to write an article. It is a great privilege to have a paper written by a renowned university in Japan like Kyudai. Despite many challenges, I thank everyone who supported me, in fact I learned and grew a lot.

As a Kenpi ryūgaku student, I was also able to accomplish some of my goals. During that one year I was able to learn a little more about Japanese language from Kyushu University's Japanese classes, although I couldn't study as much as I

wanted because of the time in the lab. Even so, in December I was able to apply the nouryoku shiken as level 3. Another memorable goal was during August, I was able to climb Mount Fuji, which was one of the most difficult experiences of my life, it was unforgettable and incredible. It took me 12 hours to go up and 5 hours to go down, so my body was extremely exhausted after that. I was also able to learn more about Japanese culture, curiosities and Japanese society, as well as seeing the change from Heisei to Heiwa Era with a new emperor, which was very interesting. Knowing some provinces of Japan and with all the experiences and challenges during this one year, I was able to know more about myself, my roots and meet people from various countries. I want to thank from the bottom of my heart all the people who took care of me, the students Kenpi Ryugaku, the people from the Fukuoka International Exchange Foundation and Kazokukai, my family from Fukuoka, the people from the university, in particular my teacher and the PhD students who accompanied me and all the students in my lab and also a big thanks to Fukuoka Kenjinkai from Brazil and my family from Brazil who supported me a lot to come to Japan. I hope I can continue to contribute to the connection between Brazil and Japan, as well as apply what I have learned and help others.





九州大学大学院 薬学研究院
創薬育薬産学官連携分野
教授 浜瀬 健司
(池尻指導教員)

池尻明美カリナさんは、平成31年4月から九州大学に在籍し、令和2年3月まで1年間、薬学府の研究生として研究活動を行ってきました。当分野を志望した理由は食品、特に機能性食品に関連する研究に興味があったということで、資生堂や坂元醸造と美容食品の共同研究を行っている私達の研究室に所属することになりました。

私達の研究室ではキラルアミノ酸をターゲットとする新規分析法を開発し、新しい生理機能成分を探索すると共に病気の診断法構築などを行っています。機能性食品に関連する研究としては、キラルアミノ酸の中で、特にD型のアミノ酸が皮膚に存在することを明らかにし、資生堂との共同研究でこれらが水分の保持、バリア機能の強化、コラーゲン産生の促進など、新たな機能を有することを明らかにしています。これまでも綺麗なスメやビューティープリンセスなどの美容飲料が共同研究で市販されています。

池尻さんは、これらのキラルアミノ酸を二次元 HPLC により正確に分析する方法の構築に携わり、1年という短期間ではありましたが、とても良く実験し、DBD-F という試薬を用いる新規分析法開発を開発してくれました。実際に発酵食品などにキラルアミノ酸が存在することも確認してくれております。この成果は池尻さん本人が発表者になり、京都で開催されました第30回クロマトグラフィー科学会議にて学会発表を行いました。

この他、唐津で開催された第37回九州分析化学若手の会に参加したり、坂元醸造の黒酢づくりを行う福山工場などの見学も行い、色々と見分を広めてくれたことと思います。研究室生活では、「ブラジルから来た研究生」ということで、私の希望により英語を主体として学生たちとの討論なども積極的に行ってくれており、研究室の国際化向上に貢献してくれました。教員として、大変感謝しております。

研究生としての期間終了後はブラジルに戻り、薬剤師として薬学・食品分野でのお仕事に戻られると思いますが、1年間の日本滞在で得た経験が有意義であることと信じております。私も機会があればブラジルに行けることを楽しみにしながら、池尻さんの今後の御活躍をお祈りいたします。



ブラジル福岡県人会
江藤エンヒッケー朗
九州大学システム情報科学府

(原文のまま)

Japanese version

私は江藤エンヒッケー朗と申します。ブラジルから参りました。よろしくお願ひします。このテキストが書かれている時(2020年1月)、私は24歳です。現在、私は福岡県では九州大学電気工学科の研究生です。

福岡市で留学生生活を過ごす事は、私の人生では新しい経験です。私が海外に住むのは初めてであり、両親のもとを離れて住むのも初めてです。そのため、料理、洗濯、お部屋の掃除、食料品の購入、生存のために日本語を話す、日本のマナーを尊重し、守るなどのスキルを学ぶ必要がありました。また、私の住んでいる寮では、福岡にルーツを持ち、私と同時に日本に来た他の8人の留学生と一緒に住んでいます。彼らはアメリカ、アルゼンチン、ボリビア、コロンビア、メキシコ、ペルーから来ました。そのため、私達全員の文化的な違いに対処する必要がありました。

日本の習慣をできる限り体験しました。4月に「花見」をしました。公園はすべて桜の花びらで覆われていて、とてもきれいでした。私達留学生は林でタケノコを収穫し、家族会のメンバーと一緒においしい料理を作りました。おいしいたこ焼きをいただきながら福岡ドームで野球の試合を見ました。そのため、野球が好きになりました。そして野球が日本の国民的スポーツだと実感しました。夏祭りで浴衣を着て日本のすばらしい花火を見ました。日本の伝統的な陶芸と難しい茶道を経験し、いくつかの神社とお寺を訪れ、また、伝統的な日本の家に一晩泊まらせていただきました。要するに、私は1年でブラジルでは見られない日本の伝統と習慣をたくさん経験できて、感謝しています。

世界中で日本料理は最もおいしいものの一つとされています。日本国内でも福岡はおいしい食べ物の都と考えられています。私は色々な種類の料理を味わうことができました。この地方の名物料理は、とんこつラーメンとして知られる博多ラーメンです。スープブイヨンは、とんこつなどの成分がベースで、これを数時間も煮こみ、濃厚な風味が得られま

す。麺を細く切るのので、お客さんはそれをより速くかむことができます。このラーメンはお腹と心を満たしてくれます。ブラジルに帰ったら、博多ラーメンが本当に恋しくなると思います。このすばらしいラーメンのほかに、おにぎり、外国人にはめずらしい味のアイスクリーム（たとえば抹茶アイスクリーム）、たこ焼き、焼きそば、焼肉、お好み焼き、すき焼き、お弁当、韓国料理、和風的な洋食なども味わいました。

県費留学生として、いくつかのイベントにも出席しました。たとえば子弟招へのイベントで福岡県にルーツを持つ外国から来た子供達の世話を手伝いました。11月には世界中で福岡県にルーツを持つ人々が参加する海外福岡県人会世界大会が行なわれました。そして家族会のメンバーの方々は前にも述べた様に夏祭り、茶道、タケノコ狩りなど、日本の文化と習慣についてもっと知るためにたくさんのイベントを促進してくださいました。

日本での生活は本当に実用的だという事実におどろきました。バスや電車の料金を支払うには、ICカードをカードリーダーに触れるだけです。公共交通機関が遅れることはほとんどありません。のどが乾いたら、自動販売機で飲み物を買うことができます。お腹がすいたら、コンビニでおにぎりやお弁当を買うことができます。レストランでは

ウェイターがおしぼりを持って来てください、それで手をきれいにふきます。市内では、カフェや駅など無料でWi-fiと電源コンセントが提供される場所がたくさんあります。日本はブラジルに比べて治安が良い国なので夜に街を歩いたり、公共の場所で携帯電話を使うことに危険を感じません。

福岡県移住者子弟留学生プログラムのおかげで私の家族の故郷である嘉麻市を訪れることができました。親戚の家を訪問し、会話をし、もう亡くなられた親族達のために祈り、そして家族の古い写真を見せていただき、私の家族のルーツについてもっと知ることができました。そのため、本当に感謝しています。この経験により、福岡県とのつながりが深まりました。

九州大学伊都キャンパスでは、庄山正仁博士の指導でマイクログリッドに適用されるパワーエレクトロニクス(Power Electronics)を研究しています。電気工学で最近注目されているマイクログリッドとこのトピックについて勉強しています。マイクログリッドとは大規模な発電所を使用せずに、コミュニティ内に小規模発電所を設置して分散電源を使用して家庭や工場に電力を送るエネルギーネットワークのことです。このエネルギーは太陽光発電、風力発電、バイオマス発電などの分散型電源から得られます。マイクログリッドシステムは再生可能エネルギーの使用により環境問題をさげ、都市から離れた地方にも供給できます。

私は日本語を勉強するためにいくらか時間を費やしました。日本人のほとんどは英語を話せないで、私は彼らとコミュニケーションをとるために日本語を向上するために勉強しました。日本語で話すのはまだ難しいですが、読むことと聞くことはずっと良くなったと感じています。また、日本語能力試験（JLPT）を申請して、スキルをテストし、証明書を獲得するため努力しました。ブラジルでももっと勉強するつもりです。

結論として、県費留学生プログラムは私の人生にとって本当に良い経験でした。私は、より自立した大人になることを学び、日本の日常生活とその習慣を体験し、おいしい食べ物を味わい、工学の技術的概念と日本語の言語を学び、そして私の福岡県での日本のルーツをもっと大切に感じました。帰国後は福岡県人会でより積極的に活動し、日系コミュニティ間の日本の伝統を守るためのイベントを促進し参加するつもりです。そして、「サムライ」、「芸者」、「アニメ」の固定観念をなくするために、ブラジルの一般の国民に日本の文化が実際にはどのようなものであるかを教えたいと思います。

English version

I am Henrique Itiro Eto and I come from Brazil, nice to meet you! At the time that this text is being written (January 2020), I am 24 years old. Here in Fukuoka, I am a research student at Kyushu University at the Electrical Engineering Department.

Being an exchange student in Fukuoka was a new experience in my life. It was the first time that I lived abroad and also, first time living away from my parents. Because of that I had to learn skills such as cooking, doing the laundry, cleaning the room, buying groceries', speaking Japanese for survival and respecting Japanese manners. And also, in my dormitory, 8 other exchange students (who also have roots in Fukuoka) lived with me. They were from the USA, Argentina, Bolivia, Colombia, Mexico and Peru. Because of that I needed to cope with cultural differences between all of us.

I tried to experience the Japanese customs as much as possible. I did "Hanami" on April, the parks were all covered with the pink petals of the cherry tree, it was so beautiful. We (exchange students) harvested bamboo shoots in a rural area and cooked delicious food with the Kazokukai members. I watched a baseball game at

Fukuoka Dome while eating some delicious takoyaki and because of that, I developed a liking for baseball (which is a national passion in Japan). We wore Yukata in Natsu Matsuri (Summer Festival) while watching awesome Japanese fireworks. We did Japanese traditional ceramic and a difficult tea ceremony, visited several Shinto and Buddhist temples and stayed overnight in traditional Japanese houses. In short, in 1 year I managed to do a lot of Japanese customs that I cannot find in Brazil and I feel grateful for it.

All around the world, Japanese dishes are regarded as one of the most delicious. And in Japan, Fukuoka is considered to be the capital of good food. So in conclusion, I tried to eat as much as possible! The specialty dish in this region is Hakata Ramen, also known as Tonkotsu Ramen. The soup broth is based on pork bones and other ingredients, which are typically boiled for several hours, giving it a thick consistency and rich flavour. The noodles are cut thin so that the customer can chew it quicker. This ramen easily fills your belly and your heart with a good feel. I will really miss Hakata Ramen when I go back to Brazil. Besides this wonderful ramen, I also ate onigiri, delicious ice cream, takoyaki, yakisoba, yakiniku, okonomiyaki, sukiyaki, bento boxes, chicken wings, Korean food, western food and so on.

As Kenpi students, we also had to attend several events. For example, there was the Shiteishouhei event in which we had to take care of children who also have roots with Fukuoka. Also, there was the Sekai Taikai event, in which people from all around the world with Fukuoka roots attended. The Kazokukai members promoted events for us to know more about the Japanese culture like the ones mentioned before (Natsu Matsuri, tea ceremony, bamboo shoots and so forth).

I got really surprised with the fact that life here in Japan is really practical. To pay the bus or train you just need to tap the IC Card in the card reader. Public transport rarely gets delayed. If you are thirsty, you can buy a drink from the vending machine. If you are hungry, you can go to a convenience store

and buy onigiri or bento box. When you enter a restaurant, the waiter usually gives you water and a towel to clean your hands called "oshibori". There are a lot of places around the city like cafes and train stations where free wi-fi and power outlets are offered. Japan, compared to Brazil, is a safe place to live, so I did not get afraid to walk in the streets at night or use cellphone in public.

Thanks to the kenpi program, I was able to visit my family's hometown, Kama-shi. I visited the home of members of family, managed to talk with them, pray for the deceased, learn more about my family's origin and see old photos. Because of that, I feel really grateful. This experience made me more connected with Fukuoka.

At Kyushu University Ito Campus, under the guidance of Dr. Masahito Shouyama, I am studying the power electronics (POWER ELECTRONICS) applied to MICROGRID. I'm studying in Japan about microgrids that have been attracting attention recently in electrical engineering and topics on this topic. A microgrid is an energy network that installs small power plants nearby in a community rather than large power plants and uses distributed power sources to send power to homes and factories. This energy is obtained from distributed sources such as solar power, wind power, and biomass power. The microgrid system avoids environmental problems thanks to the use of renewable energy and can deliver electricity to rural areas far from cities.

I used some of my time to study the Japanese language. Since most of the Japanese people do not speak English, I had to learn Japanese in order to communicate with them. Speaking in Japanese is still quite difficult, but I feel that I got much better in reading and listening. I also applied for the Japanese Language Proficiency Test (JLPT) in order to test my skills and try to get a certificate. In Brazil, I pretend to study much more!

In conclusion, the Kenpi program was a really good experience for my life. I got to learn how to be more independent and mature, experience how is daily life in Japan and its customs, eat delicious food, study technical concepts in engineering and the Japanese language, and finally value more my Japanese roots in Fukuoka. When I go back to my country, I intend to be more active in my Fukuoka Kenjinkai, promoting and participating in events to preserve the Japanese tradition between the Nikkei community. I want to make the Brazilian people more aware of how the Japanese culture really is, to break the stereotype of "samurai", "geisha" and "anime".





2019年4月から2020年3月まで、ブラジル国籍の留学生である、江藤エンヒッケ一朗君の指導を担当した。彼は昨年、ブラジル国パラナ州のパラナ連邦大学電気工学卒業後、福岡県移住者子弟留学生プログラムを通じて来日し、九州大学に研究生として入学した。この留学制度の主な目的はブラジルの技術的、経済的、文化的発展に協力する人材の形成である。昨年4月上旬、福岡県国際交流センター担当者の新井千恵様が江藤君を連れて大学にいらした時、県費留学生は国際交流センター及び福岡県人会家族会などの多くのイベントに参加する必要があるため、研究室に来られない日があると伝えられた。

江藤君の九州大学での主な活動は以下のとおりである。

(1) 江藤君のブラジルでの卒業論文のテーマであるマイクログリッドに関連したパワーエレクトロニクスについて勉強した。当研究室はパワーエレクトロニクスの研究に焦点を当てているが、彼は電力工学に重点をおいて大学を卒業しているため、書籍や研究文献などの教材を提供する必要がある。彼は書籍 (Dragan Maksimovic, Robert Warren Erickson 著「Fundamentals of Power Electronics」) の第1, 2, 3, 4, 5, および7章を詳しく勉強した。

(2) シミュレーションを実行するための計算ツール PSIM、および MATLAB についても修得した。これらのシミュレーションは電気自動車、ソーラーパネル、風力発電を含むマイクログリッドの動作を解析することを目的としている。

(3) 研究室では、ブラジルではまだ珍しい最新の機器を実験機器があり、他の留学生や外国人研究者と交流の機会もあった。

(4) 「Selected Topics in Global Science VII - 理学部国際理学コース」や「Advanced Engineering II - 工学部」などの大学内講義に参加した。

(5) 日本語のレベルを向上するため、九州大学留学生センターの日本語クラスで勉強した。

(6) 九州大学在学の全留学生を代表する九州大学留学生協会 (KUFSA) が開催するイベントに参加し、多くの異文化の人達と会うことができた。

前述の様に、福岡移住者子弟留学生と県との絆を深めることを目的とした活動に参加する必要があったため、研究を行なう時間が少し制限されたようであるが、パワーエレクトロニ

クスに関する多くの新しい知識を修得できたようである。九州大学での研究生としての経験を活かし、帰国後も勉強を続け、社会に貢献して欲しい。



コロンビア福岡県人会
坂本 サチ アンドレア
純真短期大学食物栄養学科

(原文のまま)

こんにちは-私の名前はサチ・メジナ・坂本です。今年県費留学生としてコロンビアから日本に来ました。24歳です。日本に到着してからは母の姓だけを使って「坂本」と呼ばれています。なぜなら私の日本のパスポートにはそのように書いているからです、きっと日本人にとってはその方が呼びやすいからだと思います。私が日本に住むのは初めてです、とても良い変化であり学習と経験がありました。私と共に県費留学生として一緒に来た8人は色々な国の人たちです。アルゼンチン、メキシコ、ペル、ボリビア、ブラジル、アメリカの人たちです。日本ではもう1年が経ち、たくさんの学習、経験、犠牲がありました。大変だったし、私の国、友達、家族をととても恋しく思いました。

大学は、私が通っていたのとはとても違いました。コロンビアで国際ビジネス管理を学びました。すべてが私にとって新しいものです。日本に来る前は料理のデザートについて勉強したことはありませんでしたが、好きだと気づきました。純真短期大学で料理を勉強しています。私にとって今年はまだ日本語で話すのが難しいですが、伝統的な日本とヨーロッパのデザートを作る方法を学びました。特に抹茶ロール、レモンパイ、パン、餅、パン、クロワッサン、マドレーヌ、シュークリーム。私は本当に好きで、やり続けたいです。

日本で一番びっくりしたのは、食品の開け方がとても簡単さ、町の清掃や治安の良さ、トイレのハイテク化、喫煙所の存在や冷凍食品の数々。福岡では、家族会の方々にととてもお世話になりました。とても親切で福岡のいろんな場所に連れていってくれたり日本の文化や風習を見せてくれました。日本での整理整頓や時間重視には驚かされました。私の好きな和食は寿司、うどん、そしてお好み焼きは今年見つけたパンケーキのようなもので、大好きです。

私の夏休みは最も興奮しておもしろかったです。夏休みは本当に忙しかったのですが、日本でたくさん旅行する機会があり、6月に私たちは子弟招へい事業は福岡から海外に移

民した子孫を故郷に連れてくるという信じられないほど素晴らしいプログラムです、1週間でペルー、ボリビア、アメリカ、ハワイ、アルゼンチン、メキシコ、ブラジル、パラグアイ、カナダなど色々な国の文化を知ることができるとは想像もしていませんでした。私たちは子供たちに日本の文化をしてもらうため、たくさんの活動をしました。

そして福岡にたくさんの場所も訪れました。休みに入って最初にしたことは沖縄旅行です、沖縄には県費留学生四人で行き色々な場所に行きました。美ら海水族館、万座も、ナゴパイナップルパーク、ニライカナイ橋、沖縄ワールド、平和記念公園、沖縄アウトレットモール、海空トンネルと色々な海に遊びに行きました、沖縄はとてもきれいでした。9月東京で私の家族を会いに行きました。私たちは東京の人気ある場所に行きました。母と一緒に阪に行きました。母と一緒に時間を過ごすのは良かったです。私は母と祖母と一緒に沖縄に再び行きました。私はその時のガイドでした。

11月には、茶道体験をさせていただきました。着物の着付けや、私の大好きな抹茶の溶き方などを教わりました。一番難しかったのは正座でした。慣れるまで苦労しましたが、楽しかったです。

12月は、日本語があまり話せないので能力試験 N5 を受けました、このクリスマスは、私がコロンビアにいた他のクリスマスとは全く異なっていました。中国の友人が福岡に来てくれて、一緒にいてくれてうれしかったです。温泉を見に別府に行き、そこで伝統的な日本食を食べました。長崎にも行きましたが、寒かったです！大 New 日はハードロックに行きました。とても楽しかったです。

できる限り旅行したのでとてもうれしいです。日本での生活費は高いのですが、それでも私は訪れたすべての都市で多くの楽しみを持ちました。私は食べ物が大好きになり、日本に来たときよりも7キロも体重が増えました。日本に来てから一番好きなデザートはたい焼きです。カスタードクリームでおいしいと思うので、コロンビアに戻ったときにたい焼き店を開きたいと思っています。後で抹茶カフェをオープンしたいのですが、福岡に滞在中に得た知識をすべて使います。

最後に日本に来ることの一番の良さは私が知っている人たちであり、問題があれば助けてくれる私の友人はいつも私の周りにいます。

日本で暮らすことでいい経験になりました。家族や友達と離ればなれになることがとても怖かったのですが、時間がたつにつれケンピと仲良くなることができました。

このスカラシップは他の国との強い関係を築く機会、日本をもっと知る機会、そして新しい友達を作る機会を私たちに与えるととても良い制度です、私はここにいることがとても幸福だと感じています。

Hello, my name is SACHI MEDINA SAKAMOTO and I am from Colombia. I came to Japan with the Fukuoka exchange program 2019. Now I am 24 years old. After arriving to Japan, I used only my mother's last name, "Sakamoto". That's because it is how it is written in my Japanese passport, and I think it's easier for the Japanese people to call it. It's my first time living in Japan, so it is a very good breath of fresh air and I have learned and experienced a lot of things. The eight people who came with me as prefectural students are from different countries, from Argentina, Mexico, Peru, Bolivia, Brazil and the United States. It's been already one year in Japan and has been a year with a lot of learning, experience and sacrifice.

The university that I attended in Fukuoka was very different from the one I studied in Colombia. I studied International Business Management in Colombia. Everything was new to me; I had never studied cooking desserts before coming to Japan, but I realized that I like it. I was studying nutrition at Junshin Junior College. Although for me it is still difficult to speak in Japanese, I learned how to make some traditional Japanese and European desserts like: Matcha roll, lemon pie, bun, rice cake, bread, croissant, madeleine, cream puff. This is something that I really liked, and I want to continue doing it.

There were a lot of things in Japan that surprised me such as how easy it is to open food, cleanliness and safety of the town, high-tech toilets, the existence of smoking areas and a variety of frozen foods available in the groceries. The Kazokukai members were really kind with us, and they took us to know Fukuoka's traditional places and they taught us about Japanese traditions. For that, I am very grateful. the tea ceremony was realized with Matcha, my favorite tea. The most complicated part of that activity was the position to sit (seiza) but when I got used to it, it became fun. Japan surprised me because the people are well ordered and punctual. My favorite Japanese food is sushi, udon and okonomiyaki (it is like a pancake, I discovered this year and I loved it!).

My summer vacation was the most exciting and fun. The summer vacation was busy, but I had many opportunities to travel in Japan.

In June we participated in an incredible program of bringing children from countries like Peru, Bolivia, USA, Hawaii, Argentina, Mexico, Brazil and Paraguay to Fukuoka, it lasted for a week and I never imagined that I could get to know the culture of various countries. We did a lot of activities to make the children to learn about Japanese culture. And also, we visited many places in Fukuoka.

The first thing I did on vacation was to go to Okinawa with another four kenpi students. We went to visit touristic places like Churaumi Aquarium, Manza, Nago Pineapple Park, Niraikanai Bridge, Okinawa World, Peace Memorial Park, Okinawa Outlet Mall, Sea Sky Tunnel., Okinawa was very beautiful. In September I went to see my family in Tokyo, and we went to a lot of popular places in this modern city. I also went to Osaka with my mother. It was good to spend time with her. I went again to Okinawa with my mom and my grandmother, I was the guide in this time.

In November we had the Japanese tea ceremony, it was a nice experience. I had the opportunity to choose and wear Kimono and

In December I took the Japanese Proficiency Test (JLPT) and since I still cannot speak Japanese that well, I took the N5 level.

This Christmas was totally different from the others that I had in Colombia. A friend of mine from China came to visit me in Fukuoka, was nice to have her with me. We went to Beppu to see the hot springs and there we ate the traditional Japanese food. We also went to Nagasaki and it was cold! For New Year's Eve we went to Hard Rock, it was a lot of fun.

I'm so happy because I traveled as much as I could. the cost of life in Japan is expensive but still I had a lot of fun in every city that I visited, I fell in love with the food so much that I weighted 7 kilos more than when I came to Japan. My favorite dessert since I arrived in Japan is the taiyaki. I think it is delicious with the custard cream, that's the reason that I want to open a taiyaki store when I come back to Colombia. And later I would like to open a matcha cafe, I will use all the knowledge that I acquired during my staying in Fukuoka.

In the end the best thing about coming to Japan is the people I got to know, and my friends who helped me if I had a problem are always around me. Living in Japan was a good experience. It was hard and I missed a lot my country my friends and family. One of the most difficult things at first was that I couldn't speak Japanese and also the majority of the people who came with me were boys and just one girl, so I had to learn how to deal with the male comments and behavior. This Kenpi program is a very good scholarship that can give us the opportunity to build strong relationships with other countries, learn more about Japan and make new friends. I felt very happy to be here.

When I return to Colombia, I have a big responsibility with my kenjinkai. I want to help as much as possible and being present in almost every event.





2019年4月より純真短期大学食物栄養学科製菓クリエイトコースに在籍しております坂本サチアンドレアさんの学校生活についてご報告させていただきます。

前期は基礎製菓学・基礎製菓実習・応用製菓学・応用製菓実習・調理学基礎実習・食事計画という科目を履修し、お菓子に関する知識や技術、調理の基礎を中心に学びました。基礎製菓実習・応用製菓実習では和菓子・洋菓子・パンと様々なお菓子作りを経験しました。本学の短大生ともすぐに打ち解け、スムーズにグループ活動ができていたと感じました。中でも印象的だったのは、早めに学校に来てその日に作るレシピの内容を確認して実習に取り組んでいた姿です。師範をしっかりと見て、自分でやってみて、わからないことは先生に聞いていました。また、実習中は自分で仕事を見つけて片付けや掃除など一生懸命取り組んでおり積極性があり、大変素晴らしかったと思います。欠席する場合には事前に相談があり、また突発的に休む際にもきちんと連絡ができていました。食事計画では、食事バランスガイドを用いた献立の組み合わせを学び、実際に取り組むことで理解が深まったように見受けられました。調理学基礎実習では、食材の取り扱いや包丁の使い方など基礎から学ぶことができました。後期は専門製菓学・専門製菓実習・菓子文化論・調理学実習Ⅰ・製菓製パン実習・給食実務実習を履修しました。前期に引き続き、出席状況・実習態度は全体を通して大変良かったと思います。調理学実習Ⅰでは、日本料理（お正月料理）、西洋料理（クリスマス）、中国料理などたくさんの種類の料理をグループのメンバーと協力して作ることができました。料理の盛り付け方や食器の選び方などテーブルセッティングも同時に学ぶことができたと思います。給食実務実習では大量調理という今までの小人数のグループでの活動とは違って100人分の給食作りを経験しました。量の多さに驚いたのではないかと思います。しかしながら学生とコミュニケーションを図りながら作り上げることができたと聞いています。菓子文化論では和菓子・洋菓子の歴史について学びました。毎回、見たことのないお菓子に触れ、新しいことをたくさん吸収しながら楽しんで授業に取り組んでいたように感じました。講義の中では、4か所学外研修に行きました。和菓子処「吉蔵」、フランス菓子「ジャック」、オーストリア菓子「サイラー」、菓子文化論の担当教員が開いているお菓子教室「Sweet&Table」を訪ねて店主より貴重なお話を聞くことができ将来、自分のお店を開きたいという夢がより一層強いものになったように見受けられました。将来は「鯛焼き」のお店を出すことを目標にしていると聞いております。純真短期大学での学びを生かしてサチさんの夢が叶うことを祈っています。



在ボリビア福岡県人会
岩瀬 ケービン 司
第一自動車大学校自動車整備士コース

(原文のまま)

日本に来て10か月がすぎようとしています、今思えば最初のころは心配と不安ばかりでした、私は一人で飛行機に乗ったことがなく、英語も話せないのでまよったらどうしお、「日本につけるかな?」、「荷物はとどくのかな?」、「今年の特費留学生はどんな人が来るのかな?」、「仲良く出来るかな?」、「学校はどんな感じかな難しいかな、先生は優しいかな」、「学校で友達出来るな?」と色々考えてました。それから日本くる途中にパリでメキシコ(としお)とペルー(こういち)の特費留学生に会いました、それから日本についてほかのメンバーにもあえて荷物も無事に届きとても安心しました、今年の特費留学生として来た国はブラジル3名、アルゼンチン1名、コロンビア1名、ペルー1名、メキシコ1名、アメリカ1名と自分ボリビア1名、あわせて7か国と9名の留学生が来ました。寮について色々と説明がありました、寮のルール、特費留学生としてのルール、この1年間の行事、皆さんの自己紹介、など色々な説明があり、やっぱり日本は色々と厳しいな思いました。特費の皆さんはとてもいい人たちで良かったです。

家族会の山口さんが花見をしに連れて行ってくれました、とてもきれいな桜でした。4月6日は自分がかよう第一自動車大学校とゆう専門学校の授業がはじまりました。なぜその専門学校で勉強をしたいかという、実家が農業を営んでおり機会をたくさん使うので壊れた時に自分で直せたら時間やお金を節約できると思い決めました。ドンタクパレードではいろんな国の人立ちがたくさんいて皆さんは明るくてとてもやさしい人たちでとても楽しい1日でした。

家族会の皆さんとしっかりと会ったのがせきさんの家でタケノコ堀とバーベキューをしました時です、タケノコを掘ったのは初めてだったのでとても楽しく、いい経験になりました。家族会の皆さんが作った料理とバーベキューはすごくおいしかったです。久留米の家族会がやってくれるホームステイで山崎さんのご自宅にお世話になりました。山崎さんは

とっても優しく、楽しい人です、夜には焼き鳥やに食べに来ましたとってもおいしかったです、山崎さん本当にありがとうございました。

7月は子弟招聘事業がありました、色んな国の子どもたちと引率者が来ました。最初は言葉の違いと初対面な人たちなので皆さん恥ずかしくてしずかでしたが、すぐに仲良くなりました。子弟招聘事業では色んな活動がありました。学校の見学や福岡タワー、太宰府天満宮、災害センターなどがありました。自分が一番好きだった活動はみずでっぽ作りと地震体験でした、とても楽しかったです。子供達と引率者と仲良くなったので帰る日はとても寂しい気持ちになりました。

学校が夏休みに入って最初にしたことは沖縄旅行です、沖縄には県費留学生四人で行き色んな場所に行きました。美ら海水族館はとても大きくて見たこともない動物がたくさんいました、一番印象に残ったのがジンベイザメです、沖縄ワールドでは、どうくつに入りました、景色がとても美しかったです。沖縄から帰って来て、家族会の皆さんと花火大会に行きました、花火大会では色んな食べ物があってすごくおいしかったです、人もいっぱいいました。ボリビアでは見れない大きくて美しい花火でした。家族会の皆さん美しい花火とおもいでを作ってください、ありがとうございました。その一週間後にやまぐちさんたちに海に連れて行ってくれました、バナナボートに乗ったりサッカーして遊んだりしました、やまぐちさん、ありがとうございました、とても楽しかったです。

家族会の皆さんがぶどう狩りに連れて行ってくれました、はじめてのぶどう狩りでした、ボリビアのぶどうより大きくて甘かったのでとてもおいしかったです。家族会の皆さん貴重な体験ありがとうございました、とても楽しい一日でした。

学校では会社説明会があり、色んな会社の人たちがきました、トヨタ、ネッツトヨタ、日産、スバル、UD TRUCKS, ISUZU、HONDA, SUZUKI, フォルクスワーゲン、アウディ、ジャガー、ランドローバーさんたちがきてくれました。皆さんの話をきくのはとても興味深くて楽しかったです。会社のシステム、給料、売ってる車のしゅるい、トラック、各会社の階級制度、自分が一番興味をもった会社はジャガー、ランドローバーです、なぜなら給料もよくランドローバーやジャガーの車を運転や乗ったこともなくその車をいつかは買いたいと思っていたからです。学校の実習はとても楽しいです、ガソリンエンジン、ジーゼルエンジンをばらし組み立てたりします、そのほかにも溶接、アーク溶接、ガス溶接をしました、ボリビアではよく溶接するのでまなべて良かったです。学校はとても楽しく先生や友達はとてもいい人で優しい方ばかりです。これからも色々学び覚えてボリビアに帰ってまなんだことを役立てないです。

日本に来て今までの経験や楽しい時間を過ごせたのはお招きいただいた海外福岡県人会の皆様や家族会の皆様とボリビア福岡県人会の皆様貴重な体験といい思い出を作ることができて本当にお世話になり誠にありがとうございます、福岡で過ごした一年間忘れることはないと思います。ボリビアに来るきかいがあれば私に連絡してくれればできるかぎりのおもてをさせていただきますので。帰国後も日本で学んだことをいかして頑張っ仕事をしたと思います、県人会ではこれからも海外福岡県人会と在ボリビア県人会をつなぐ架け橋になりたいです。

About ten months have passed since I came to Japan. At first, I was worried and anxious, I had never been on an airplane alone and I couldn't speak English.

“Will I be able to arrive in Japan?”, “Will the luggage arrive?”, “What kind of people will come to this year as Kenpi ryūgaku students?”, “Will we get along?”, “How will be school?”, “Will it be difficult?”, “Is the teacher kind?”, “Will I be able to make friends at school?”. I thought of many things. Then, on the way to Japan, I met a Kenpi ryūgaku student from Mexico (Toshio) and Peru (Koichi) in Paris and I met the other students when I arrived in Japan. Also I was relieved that I received my luggage safely. The students of this year are 3 from Brazil, 1 from Argentina, 1 from Colombia, 1 from Peru, 1 from Mexico, 1 from the United States and me from Bolivia, a total of 9 students from 7 countries. When we arrived to the dormitory, there were various explanations, such as the rules of the dormitory, the rules for Kenpi ryūgaku students, the events that would have, a self-introduction, so I thought that Japan would be harsh. I was glad that the Kenpi ryūgaku students were very good people.

The cherry blossom trees that Mr. Yamaguchi from Kazokukai took us to see were very beautiful. On April 6th, classes at the technical college called Dai-Ichi Automobile Mechanics College began. The reason why I wanted to study at that technical school was because my parents managed agriculture and they use a lot of machines, then I thought that I could fix them when they broke, saving time and money. In the event Dontaku Parade, there were people from many different countries, everyone was bright and very friendly and it was a very enjoyable day.

The first time that I met most of the members of Kazokukai was during the bamboo shoot moat and barbecue at Mr. Seki's house. It was my first time to dig a bamboo shoot and this event was a very fun and good experience. The food and barbecue cooked by the Kazokukai members were really good. During homestay event, provide

by Kazokukai members of Kurume, I was taken care of in Mr. Yamazaki's home. Mr. Yamazaki is a very kind and fun person. He took us to eat at a Yakitori restaurant at night and the food was very delicious. Thank you very much, Mr. Yamazaki.

In July, there was the event called 'Shitei Shouhei', which came children and leaders from various countries. At first, when all of us met each other, everyone was embarrassing and quiet because of the language differences, but soon we got along. There were various activities during Shitei Shouhei. There were school tours, we visited Fukuoka Tower, Dazaifu Tenmangu Shrine, Disaster Center, etc. The activities I liked the most were when we played with water shoots made by bamboo and experiencing earthquakes, which were very fun. I felt so lonely on the day they returned because we became friends with the children and the leaders.

The first thing that I did during summer vacation was to travel to Okinawa with four Kenpi ryugaku students and we went to various places. The Churaumi Aquarium was very large, there had many animals that I hadn't seen before and the most impressive thing was whale sharks. In Okinawa World, we entered in a cave and the landscape was very beautiful. When we came back from Okinawa, we went to the fireworks festival with Kazokukai members. At the fireworks festival, there were various foods that were really delicious and there were many people. Also there were big and beautiful fireworks that I had never seen in Bolivia. Thank you, Kazokukai members, for making beautiful and memorable fireworks. One week later, Mr. Yamaguchi took us to the beach and I took a banana boat and played soccer. Thank you, Mr. Yamaguchi, it was very fun.

The Kazokukai members took us to pick grapes, which was my time first doing that. The grapes were bigger and sweeter than Bolivian's grapes and they were very good. It was a very enjoyable day, thank you to all the Kazokukai members for their valuable experiences.

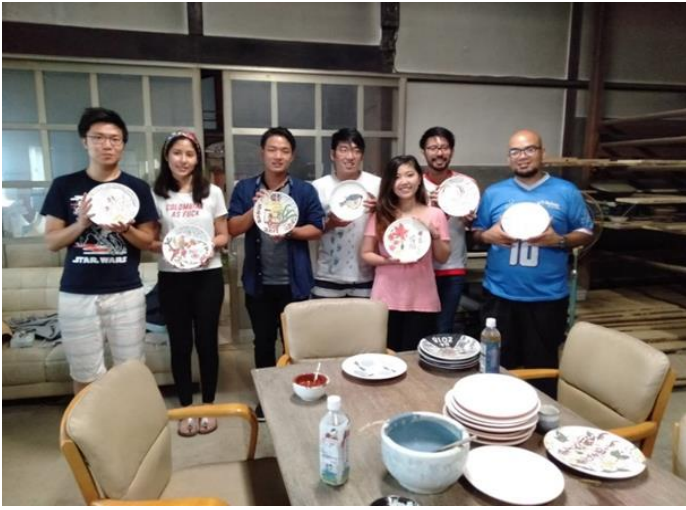
At the school, there was a company explanation lecture and people from various companies came, which were from Toyota, Netz Toyota, Nissan, Subaru, UD TRUCKS, ISUZU, HONDA, SUZUKI, Volksbergen, Audi, Jaguar, Land Rover companies. . It was very interesting and fun to listen to these people's lectures. Jaguar and Land Rover were the companies that interested me the most based on the company's

system, salary, the types of the cars sold, trucks, company's hierarchical system, because the salary is good and since I never drove these companies' cars and I would like to buy them one day. The school practice is very fun, we assembled gasoline engines and diesel engines separately. We also performed welding, arc welding, and gas welding. We welded well in Bolivia, so it was good to learn. The school is very fun and my teachers and friends are very nice and gentle. I want to make use of what I learned when return to Bolivia.

The experience and enjoyable time that I have ever had in Japan provided valuable experiences and good memories. All of them were thanks to the Fukuoka



International Exchange Foundation, to the Kazokukai members and to the Bolivia Fukuoka Kenjinkai. Thank you very much for taking care of me, I think I will never forget the whole year I spent in Fukuoka. If you have any questions about coming to Bolivia, please contact me and I will give you the best possible treatment. Even after returning to Japan, I would like to do my best by using what I learned in Japan, and I want to continue to work as a bridge between the Fukuoka International Exchange Foundation and the Bolivia Fukuoka Kenjinkai.



第一自動車大学校
副校長 大島 昇
(岩瀬指導教員)

本校は、平成元年に福岡市博多区東光町に開学し今年度で31年目を迎える歴史ある自動車整備士を育成する専門学校です。若者の車離れがある中、最近は、アジアからの留学生が自動車整備を勉強したいと入学希望者が増えてきました。彼らの主な国は、ベトナム・ネパール・スリランカ・インド・中国です。

受け入れ始めて約5年がたち、やっと留学生の卒業生も自動車整備士として認められて、福岡県内に限らず全国の自動車ディーラーや個人経営の整備工場に就職し、活躍するようになってきました。

そんな昨年、国際交流センターの方から、ボリビアの学生を1年間留学させてほしいとの要請がありました。最初は、日本の裏側の国しか印象がなく、日本語は大丈夫かと受け入れに大変不安でした。

いよいよ4月に岩瀬ケービンくんが入学し、彼と色々な会話を繰り返すうちに、不安はいっきに解消しました。

まず、性格はとても素直で責任感があり安易な考えでの留学ではなく、知識や技術を身に付けようと何事にも前向きに取り組む姿勢に大変驚きました。

授業中は、特に自動車実習に興味をもち一生懸命でした。もともとボリビアでは自動車や農業機械に接する環境なのか、手先も器用で個人、グループ作業共に率先して作業を行っていました。学科の授業では、日本語の会話は全く問題なく理解できるのですが、日本語(漢字)の読み、書きはボリビアではほとんど教育されていないようでしたので、毎日教科書の漢字の読解に苦労しているようでした。

その影響もあり、他の留学生同様、日本語能力試験 N3、N2 レベルまでの日本語の勉強に積極的に一生懸命取り組んでいました。

クラスの中では、日本人と留学生が在籍するクラスで、分け隔てなく交友を築き日本人と留学生の中間の立場の考え方で接していました。特に日本人の学生とは、年齢も近いせいか、プライベートでも交友があったようです。

最終的に1年間の教育では、自動車整備士としての勉強は中途半端に終わってしましますが、彼が本校で取得した資格「ガス溶接技能講習」「アーク溶接技能講習」「巻き上げ

（ウィンチ）講習」「低圧電気取り扱いに関する講習（ハイブリット講習）」はすべて修了しており、将来ボリビアで、農業を営みながら生活していくうえで、何らかの形でお役にたてれば、私達は大変うれしく思います。

今後彼がボリビアにもどり、又普段の生活が始まりますが、本校に在籍した1年間の誇りに思い、新たなる目標を持ち、高い志で夢と希望を追い求め、次の世代を担う、日本とボリビアの架け橋としてのリーダー的存在として、活躍することを期待しております。



アルゼンチン福岡県人会
杉野ニコラス
九州大学システム情報科学府

(原文のまま)

イントロ

まず、福岡国際交流センターと福岡県にこの素晴らしい機会を与えてくれたことに感謝しています。私は父側の家系から数えたら第三世の日系人であり、私の祖母と祖父はともに福岡県大牟田市出身で、戦後最初パラグアイに移民し、そして最終的にはアルゼンチンに移住した。私は兄弟2人の長男であり、家族の半分は日本人だが、他の留学生と比べて日本文化に触れる機会が少なかったため、このプログラムに参加する主な理由の1つは、日本の文化に触れて、自分のルーツである、福岡をより知るためである。さらに、私はアルゼンチンで電子工学者として卒業し、仕事の主な分野はコンピュータビジョンであるため、日本はこの分野で先進国であり、最先端の技術と有名な研究者と共に研究をする機会があるのがここに来るもう一つの大きな理由でした。

日常生活

アルゼンチンに住んでいた時に、私は両親と一緒に暮らしていたが、仕事をしていたので家計を手伝っていただけ、本当に1人暮らしをした事がない。想像したより、日本は本当に住みやすい国である。日本の食べ物は質がよくて美味しい、公共交通機関の質、日本人のマナーと礼儀正しさ、安全感などはアルゼンチンと比べてすべてが異なっています。最初は自分の日本の生活で一番大変な事は言語になることだと気づいたので、最初の数ヶ月は日本語の勉強にもっと集中することにし、日本語が得意な他の留学生も助けてくれた。

学校

私の研究に関しては、九州大学の大学院システム情報科学府のイメージ・メディア理解研究室（LIMU）に通っている。島田教授と峰松助教授に心から感謝しています。彼らは私を研究室に迎え入れてくれただけでなく、研究室の主要な研究の一つに参加させていただきました。教授たちは、夏の終わりまでに研究を終えることができれば、国際会議に応募できる可能性があると言われました。私はこれを仕上げるために多くの努力を注ぎ、論文を書くことに成功した。そして、この論文はマルタで開催されるVISAPP2020国際会議で

受け入れられ、来月は私 が出席して発表を行う予定です。この研究は、中国のと日本の3つの大学間のMPR2019という 京都で行われた学会でも受け入れられた。私は京都に行つて、研究室の他の2人の学生とポスター発表を行いました。また、九州大学と国際広場の日本語クラスに参加しましたが、そのクラスは他の留学生の助けを借りて本当に自分の日本語を向上させるのに役立ったので、初めて日本語能力試験を受けるのに十分な自信がありました。

イベント

今年は幸運なことに福岡で4年に一度行われる福岡県人会世界大会が開催され、絆を強めるために世界の20国以上に存在する県人会の人々が集まりました。私は元県費留学生と会う機会を得られて、自分たちの経験を共有することができ、全員が同じようなことをしていることに気付きました。もう一つ大きなイベントが開催されました、子弟招へいである。11歳の19人の子供と引率者が10日間福岡に来ました。私たちは皆同じ場所に泊まり、たくさんの活動を共有しました。これは本当に充実した楽しいイベントで、活動はとても面白かったですし、福岡各地を訪れました。私の意見では、これは最も楽しんだイベントであり、子供たちもまた楽しい思い出をたくさん作ったと思います。

これらの2つの大きなイベントに加えて、県費留学生や家族会のメンバーと一緒に、一年中たくさんの活動をさせていただきました。私たちは久留米の家族会メンバーの家でホームステイをしました。そこでホストファミリーの山崎さんが祖母の弟の家がある大牟田市連れて行ってくれました。それについて本当に感謝しています。また、花見、サッカーや野球の試合を見に行ったり、バーベキューをしたり、竹の子を収穫したり、副知事と会ったり、伝統的な方法で陶芸をしたり、久留米にある筑後川の土手で花火を見に行きました。ぶどう狩りして、そばを作り、相撲稽古場所で練習をに見て一緒にちゃんこ鍋を食べて、着物を着て、お茶を飲む伝統的な茶道に参加し、自分でお茶を立てた。久留米の近くの山でハイキングをして、北九州にあるTOTOやしやぼんだまという重要な工場を見学し、餅つき、これは家族会や交流センターの人々が主催してくれるイベントです。この活動の大部分は日本でしか行えなくて、アルゼンチンではほとんど経験できません。

最後の言葉

最初はこのプログラムに何を期待すべきか正確に分かりませんでした。仕事を辞め、1年間日本に暮らし、身近な人たちから離れることについて多くの疑問を抱いていました。しかし、それは自分の人生で最も実りの多い年の1年になりました。人間として大きく成長できたと思います。さまざまな国の人々と接することで、視野や考え方が広がりました。県費留学生と私たちは最初から絆を結んでうまくやっていくように努力しました。たとえ

私たちは非常に異なる性格と文化的背景を持っているにもかかわらず、問題が起きた時にしっかりと話し合うことができたから、9人家族のようになりました。私たちが再び一緒に会えるかどうか分かりませんが、私は彼らにたくさん感謝し、会うことができたなら、これらすべての良い瞬間を思い出して本当に楽しい時間を過ごすでしょう。国際交流センターとアルゼンチン福岡県人会に、私の人生で最高の年を迎えてくれたことに感謝します。信じられないほど楽しかっただけでなく、さまざまな面で成長し、素晴らしい人たちに会いました。このプログラムを終えた後、私の経験を共有し、若い人たちに県人会に参加するように進めたいと思います、彼らに熱心になってもらいたいです。皆と一緒にこれからの留学生が日本のライフスタイルへなれるのがよりスムーズになるために将来の留学生を支援する新しい方法を話し合っ、これかれ皆の自分の国の人にこれを伝えます。今年出会ったすべての人、特に私の県費留学生に感謝します。いつかまた会えることを願っています。

Intro

First are foremost I would like to thank Fukuoka Kokusai Koryu Center and the Government of Fukuoka for this great opportunity. I am a third generation Nikkei from my father's side of the family, both my grandmother and grandfather are from Omuta, Fukuoka-Ken and left Japan when they were about my age to Paraguay and then finally to Argentina. I am the eldest son of two, and even though half of my family is Japanese I was not so I touch with the culture compared to the other exchange students, so one of the main reasons to come in this program was to get in touch with my roots, and the Japanese culture. In addition, I graduated as an Electronics Engineer, and my main field of study and work is computer vision, Japan is a very developed country in this field and having the opportunity to study and research with state-of-the-art technologies and renowned researchers was another big reason to come here.

Daily Life

Back there in Argentina I always lived with my parents, and even though I had a really independent lifestyle it was going to be my first time living by myself. Thankfully, Japan ended up being a really comfortable place to live. Everything from the food which has great quality and is delicious, the quality of public transportation, the manners and politeness of the Japanese, and the feeling of

safety which is totally different from Argentina. At first I realised that my main difficulty was going to be the language, so I decided to focus a lot more during the first months in that, and also other exchange students who are really good at Japanese helped me a lot with that.

School

As for my studies, I attended the Laboratory for Image and Media Understanding (LIMU), of the Graduate School of Information Science and Electrical Engineering at Kyushu University. I am really grateful towards Professor Shimada and Assistant Professor Minematsu, who not only welcomed me to their laboratory but also let me be part of one of the main works of the laboratory. The professors mentioned to me the possibility of applying to an international conference if I could manage to finish the research by the end of summer. I put a lot of effort into finishing this, and I managed to write a scientific paper. Thankfully, this paper got accepted in the VISAPP2020 international conference which will be held on Malta and where I will be attending and making an oral presentation next month. This work was also accepted in MPR2019, which is a closed conference between three universities of China and Japan, I went to Kyoto to do a poster presentation with two other students of the laboratory. I also attended Japanese classes in Kyushu University and Kokusai Hiroba, those classes along with the help of other exchange students really helped me improve my Japanese skills, so that I was confident enough to take for the first time a Nouryoku Shiken (Japanese Language Proficiency Test).

Events

This year we had a special event which is held every 4 years in Fukuoka, the Sekai Taikai where people from over 20 Kenjinkai around the world gathered to strengthen our bonds. I got the chance to meet with lots of previous exchange students, we could share our experiences and realised that we all have been through similar things. We had another big event this year which was the Shitei Shouhei, 19 children of 11 years old along with their chaperones came for 10 days to Fukuoka, we all stayed in the same place and shared plenty of activities. This was a really fulfilling and fun event, the activities were really interesting and we visited places all over Fukuoka. In my opinion this was the event that I

enjoyed the most, and I think the kids also made lots of fun memories that will last. Besides those 2 big events, with the exchange students and the members of Kazokukai we also had lots of activities throughout the year. We did a homestay with Kazokukai members in Kurume, where my host Yamazaki-San took me to meet my grandmother's brother and his wife in Omuta, I'm really thankful to him for that gesture. We also did Hanami (sightseeing of Sakura blossom), went to see soccer and baseball matches, had a barbeque and harvested bamboo shoots, we met with the vice governor, made ceramics in the traditional way, went to see fireworks in the riverbank of Chikugo River in Kurume, harvested grapes and made soba, went to a Sumo practice and had Chanko nabe with them, wore kimono and participated in a traditional tea ceremony, both serving and having tea, we hiked in a mount close to Kurume, went to visit important factories in Kitakyushu, such as TOTO and Shabondama, made mochi (mochitsuki), and this is only counting the events organized by Kazokukai and Koryu center. Most of these activities can only be done in Japan or are barely found in Argentina.

Final words

At first I did not know exactly what to expect from this program, and I had many doubts about taking a whole year off, quitting my job and moving away from the people close to me. However, it ended up being one of the most fruitful years of my life, I think I managed to grow a lot as a person, and dealing with people from different countries helped me broaden my perspective and way of thinking. With my fellow exchange students we tried our best to bond and get along from the start, even though we have vastly different personalities and cultural contexts, we could talk through the issues that arose and managed to become like a 9 person family. I don't know if we will ever meet all of us together again, but I do know I will appreciate them a lot and if we get to meet we will have a really good time remembering all these good moments. I would like to thank Kokusai Koryu Center, and Argentina Fukuoka Kenjinkai for granting me one of the best years of my life. Not only it was incredible fun, I also managed to grow in different aspects and met some awesome people. After finishing this program, I would like to encourage young people to participate in the Kenjikai, probably by sharing my experiences and hoping to get them most enthusiastic about it. With the other

exchange students we' ve been thinking and implementing new ways to help future exchange students, so they have a smoother transition to japanese lifestyle. To everyone that I met this year and especially to my fellow exchange students, thank you and I hope we can meet again someday.



杉野 ニコラス アレハンドロ君は、2019年4月から研究生として当研究室に所属し、映像解析に関する研究に取り組んできました。本所見の執筆時点まで約9か月間、研究の方向性や方法論、実装、実験について、指導教員や研究室のスタッフと定期的に議論を重ねながら研究を進めてきました。まず、総合的な所見としては、非常に研究遂行能力が高いことに感心しています。受け入れ当時に考えていた研究計画としては、研究室で進めているプロジェクトのサブテーマを担当してもらい、実験の補助になるシステム開発を念頭に置いて打ち合わせをしておりました。ところが、実際に研究を始めた早い段階で、研究テーマに対する彼の理解能力の高さや、テストコードを開発した際のプログラミング能力の高さを実感し、路線変更をして、プロジェクトのメインテーマの担当をお願いすることにしました。

メインの研究テーマは、映像サーベイランスに関する研究で、シーン内に出現する物体を効率よく検出することを目的としています。従来研究のアプローチには、①機械学習により候補となる物体の画像特徴をあらかじめシステムに登録しておき、類似特徴を持つ物体を観測シーンから発見する手法（物体検出法）と、②シーンの定常的な状態をシーンの背景モデルとして学習し、観測シーンとの差分から物体の候補領域を発見する手法（背景差分法）の2種類に大別されます。①の方法は、登録されている物体については精度よく検出できますが、登録された物体以外の検出ができないという問題があります。一方、②の方法は物体の候補領域を網羅的に検出できるという利点がありますが、物体以外の領域も誤って検出してしまうという問題があります。杉野君の研究テーマでは、これらの2つのアプローチの利点を活かしつつ、互いの欠点を補うために、物体検出法と背景差分法を組み合わせた統合フレームワークの実現を目指しています。

これまでの9か月間で、システムの設計とプロトタイプシステムの実装、公開データセットを利用した評価実験を行ってきました。その成果については、2019年11月に開催された国際ワークショップで発表をしています。また、統合フレームワークの全体設計や、その実現方法、詳細な実験結果については、2020年2月にイタリアで開催される画像解析関係の国際会議に投稿し、Full Paperで採録されています。以上のように、杉野君は研究能力が非常に高く、その取り組みの成果が客観的にも認められています。私自身も、杉野君の研究に対する積極的な取り組みに対してとても評価しております。



ペルー福岡県人会
シバタ サウリルイス アンヘル コイチ
九州産業大学造形短期大学部

(原文のまま)

現時点で日本で行った各活動について話すことは非常に複雑です。そのため、私にとって最も重要な活動に焦点を当てます。

来る前にボリビアのケビンとメキシコのトシオと話をしていたので、パリで会うことに同意しました。そこで私もサチに会った。羽田に到着して、私たちは会いました。

最初の数日間、私は言語が理解できなかったのでも怖かったです。また、誰もが勉強し始めたのを見ました。私の場合はまだ先生がいないのでまだ始まっていませんでした。それから私は1つに紹介され、その後、別の教師に変わることになりました。石崎先生は今年で最高の先生でした。

私は彼らと野球をトレーニングできるかどうか尋ねられたとき、大学は拒否しましたが、おそらくこの日本のスポーツについてもっと知りたいと思う私の精神は、私がコーチと直接話し、彼の応答は私が望むときにいつでも来て訓練することでした。そして、そのようにして私は球三台チームで野球のトレーニングを始めました。

最初のサイクルは、ブランディング、広告デザイン、創造性、研究の授業を受けました。授業では非常に奇妙なことが起こりました。なぜなら、私は言語を話せませんでしたが、彼らが話したことと説明したことを完全に理解していたからです。一般的なレベルであり、それは私を非常に幸せにし、勉強を続ける意欲を与えてくれました。

私の調査は、「ペルーと日本の広告の違い」という非常に複雑なトピックに関するものでした。私はさまざまなカテゴリを使用しました。食べ物、ライフスタイル、スポーツ、アルコールなどです。最終的な結果として、2月に開催される九州産業大学図書館の展覧会に選ばれた3つのポスターを作成しました。

7月に、それは私たちと一緒に多くのゲーム、笑い、そしていくつかの非常に良い日を共有したアンドレスとヒカリ、ペルーの子供たち、そして他のすべての子供たちに会いました。ひかりとともに、私は非常に親密になり、とても for になりました。

彼らが彼らの国に戻った瞬間は非常に悲しかったですが、私はすぐにまた会えることを知っています。

九州産業大学造形短期大学部 8月は夏やすみで、ケンピと一緒にビーチに行きました。とても暑い日で、とても楽しかったです。

私も父に会いに静岡に行くことにしました。私は彼に6年以上会っていません。私は彼と何日も共有し、一緒に料理をし、多くの散歩を共有し、お互いに会わずにこれらすべての年について話しました。とてもきれいで、とても幸せでした。

その時、私は数日かけて富士山に登りました。私はブラジルのアケミーとディエゴと集まり、登山に行きました。それは忘れられない経験でした。頂上まで10時間以上登り、富士山の上の日の出を見るのは忘れられないものでした。

静岡では10年後、学校の親友に会えました。私たちは彼女の家族と一緒にビーチに行き、とても良い一日を共有しました。

9月にクラスに戻ったとき、すべてがより困難になりました。特に、今では教室内のすべての生徒と仕事に触れているので、それが最も複雑でした。それでも、私はそれを行うことができ、先に進むことができました。

大学フェアも開催され、最高の作品が展示されました。私の家庭教師は私の作品の1つを見せてくれないかと聞いて喜んで受け入れましたが、展示会に行ったとき、それが単なる仕事ではなく、前のサイクルからの私の作品の4つであったことに驚きました。私の努力が多くの人々にさらされているのを見て以来、私は多くの喜びを感じました。

ハロウィーンではパーティーを開催し、全員が変装します。友達を招待し、たくさんの料理を作り、コスチュームコンテストを開催し、天神に行って他の人と変装して写真を撮りました。非常に良い衣装を着た人がたくさんいたことに驚いた。こんな美しいハロウィーンを経験したことはありませんでした。

11月、九三大野球チームがヤフードームで九州ファイナルをプレーしました。彼らは私をセミファイナルとファイナルに励ましに誘ってくれました。私の友達になった人が何人かいたので、チャンピオンが出てきたときはとても嬉しかったです。

世界会も行われました。さまざまな国の多くの人々に会ったので、とても美しい経験でした。大きな代表団が私の国から来て、私は何ヶ月も後に再び彼らに会った。私たちは多くのことを話し、すべての会議、パーティー、散歩を楽しみました。龍がくせいが歌を歌い、とてもきれいでした。

冬が始まり、寒くなってきました。家ではこたつを置いて、夜は毎日そこに座って話し、共有し、演奏しました。友達と一番覚えていることのひとつだと思います。

12月、私たちは皆、クリスマスに興奮します。博多と天神の街をどのように装飾したかがとても気に入りました。すべてがとても明るく、お祝いと美しい雰囲気息づいていました。家でパーティーを開き、プレゼントを交換しました。私は、それらすべてをg学生の友人と共有することを本当に楽しみました。

私たちの国に戻るまであと数ヶ月があり、この時点でもっと美しいことが起こると確信しています。ここで友達とできるだけ多くの時間を共有するために、何よりもそれらを利用したいと思っています。

Talking about each of the activities we have done in Japan at this time is very complicated, for that reason I will focus on the ones that were the most important for me.

Before coming I had already been talking with Kevin from Bolivia and Toshio from Mexico and we had agreed to meet in Paris. There I also met Sachi. Arriving at Haneda we met each other.

The first few days I was very scared because I didn't understand the language, and I also saw that everyone was starting to study and in my case it still didn't start because I didn't have a tutor yet. Then I was introduced to one and then ended up changing to another teacher. Ishisaki sensei was the best teacher I've had in all this year.

When asked if I could train baseball with them, the university refused, but perhaps my spirit of wanting to know more about this sport in Japan made me speak with the coach directly, to which his response was to come and train whenever I want. And that way I started training baseball with the KyuSanDai team.

The first cycle I took classes in branding, advertising design, creativity and research. In the classes something very strange happened, because although I did not speak the language, I understood absolutely everything they spoke and what they explained, besides the tasks I gave them and it was a complete surprise for all my classmates and teachers since they were well above general level, that made me very happy and gave me more motivation to continue studying.

My research was about a very complicated topic, "The difference between Peruvian and Japanese advertising", I used different categories: Food, Life Style, Sport, alcohol, etc. As a final result I made 3 posters which were selected for an exhibition in the Kyushu Sangyo Daigaku library that will be in the month of February.

In July it was the shiteishouhei, there I met Andres and Hikari, the children of Peru and all the other children with whom we shared many games, laughs, and some very nice days. With Hikari I became very close, so much that it became a niece for me.

The moment they returned to their countries was very sad, but I know I will see them again soon.

In August it was Natsuyasumi I went to the beach with the kempi, it was a very hot day and we had a lot of fun.

I also decided to go to Shizuoka to see my father, I haven't seen him for more than 6 years. I shared many days with him, we cooked together, we shared many walks and talked about all these years without seeing each other. It was very beautiful and I was very happy.

Also at that time I took a few days and went to climb Mount Fuji. I got together with Akemy and Diego from Brazil and we went climbing. That was an unforgettable experience, climbing more than 10 hours to the top and watching the sunrise above Mount Fuji was something I will never forget.

In shizuoka I could also see my best friend from school after 10 years, we went to the beach with her family and shared a very nice day.

When I returned to class in September, everything became more difficult, especially because now I was exposed to all the students in my classroom each of my work, that was the most complicated. Still, I was able to do it and get ahead.

The university fair was also held where the best works were exhibited. My tutor asked me if they could exhibit one of my works, I accepted with pleasure, but when I went to the exhibition I was surprised that it was not just a job, it was 4 of my works from the previous cycle. I felt a lot of joy since I saw that my effort was being exposed to many people.

On Halloween we organize a party and we all disguise them. We invited friends, we cooked a lot of food, we held a costume contest and we also went to Tenjin to take pictures with other people in disguise. I was surprised that there were many people with very good costumes. I had never experienced such a beautiful Halloween.

In November the Kyusandai baseball team played the Kyushu final in the Yahoo Doomu, they invited me to go to encourage them to the semifinals and the final. I was very happy when champions came out because there played several people who became friends of mine.

SekaiTaikai was also performed, it was a very beautiful experience because I met many people from different countries. A large delegation came from my country and I met them again after many months. We talked a lot, we enjoyed all the meetings, parties and walks. The Ryuugakusei sang a song and it was very beautiful.

Winter started and it was getting colder. At home they placed kotatsu and every day at night we sat there, talking, sharing and playing. I think it's one of the things I will remember most with my friends.

In December we all get excited for Christmas. I really liked how they decorated the streets of hakata and tenjin, everything was very bright and a very festive and beautiful atmosphere was breathed. At home we held a party and exchanged gifts. I really enjoyed sharing all that with my Ryuugakusei friends.

There are few months left to return to our countries and I am sure that more beautiful things will happen at this time. I hope to take advantage of them and above all to share as much time as possible with my friends here.



シバタ サウリルイス アンヘル コウイチさんについて

シバタ サウリルイス アンヘル コウイチさんは、九州産業大学造形短期大学部造形芸術学科 石崎研究室において、平成31年4月1日から令和2年3月31日までの一年間、在籍中の学生です。

前学期は実用国語Ⅰ、Ⅱの受講で日本語に慣れながら、グラフィック系の授業を中心に学びました。学業面について週一回を目安に指導し、特にデザイン研究で学びを発展させていきました。後学期は前期の研究を深め、卒業研究において研究成果を発表するまでを目標としています。

出席状況はとても良く、国際交流センターの活動と重なる時間以外はきちんと授業に出席し、発表などの機会にも臆することなくプレゼンテーションを行うことが出来ています。入学当初と比べてみますと日本語も随分と上達しコミュニケーションがスムーズになっております。またデザイナーとしての実績のあるシバタさんと一緒に学ぶことで、造形の1,2年生にとっても良い刺激になっているようです。

研究については、「日本とペルーの広告比較研究」のテーマで研究を進めております。日本とペルーの同じジャンルの広告表現を比較するために数多くの資料集めが必要でしたが、スムーズに情報収集をすることが出来ました。それぞれの広告を比較した上で、シバタさんのオリジナルデザインを制作し、卒業研究（ポスターデザイン）として発表する予定です。デザインするにあたり、画像の著作権を調べたり、使用許可を貰うために交渉したりすることも抜かりなく行いました。オリジナルデザインは日本とペルーの良いところや特徴をうまくミックスさせた興味深い表現になっており、シバタさんが本来持っていた流石の技術力で卒業制作展を一層良いものにしてくれると思います。

残り少ない学生生活となりますが、この調子で研究を進めていけるよう出来る限りバックアップして行きたいと思います。留学生ならではの視点で、現実味のあるデザイン研究になることを期待しています。

指導教員

石崎 幸



メキシコ福岡県人会
寺本 飯田 利生 アルツーク
福岡調理師専門学校調理師本科

(原文のまま)

県費留学

一年はもうすぐ経ちますが、今までの思い出をここに書くのはすごく悲しくなりますが、この気持ちがあるからこそ、この県費留学の一年間は最初から今日まで人生を変わったと思います。

2月

私の旅はここから始めました、福岡県の学生たちはメキシコに観光に来た時から、私は福岡を好きになっていました。楽しいしりっぱな学生たちに、メキシコのことを紹介したりしていると、段々福岡にいる雰囲気を感じました。

3月

3月が一番忙しかったです。仕事をまだ終わっていなかったので、新しい担当者に全部を教えたり、家族と友達と会ったり、買い物とお土産をしたり、掃除をやったり、そして、一年間に必要な物を考えていました。30日に両親と一緒に空港へ行って、最後のタコスを食べました。最初はパリに着いて、初めて出会った県費留学とパリの空港で話しました、ペルーのこいちとボリビアのケヴィンは最初に会いました。次の飛行機に他の学生は同じ飛行機にりましたが、私は東京まで分からなかったです。

福岡空港に着いたらすぐ福岡と縁を感じました。説明するのは難しいけど、ただ感じました。そのあと寮に着いて荷物を部屋の中に置いたり一年間の新しい人生に慣れないといけないと思いました。

4月

二月にメキシコに行った学生たちは友達になっていましたから、着いたらすぐ会いたかったです。そして、ちょうど4月に桜を一緒に見に行きました。

人生で初めて日本の専門学校に行くのもちょっと怖かったです。日本語を読めないしちゃんとやりたいことを説明出来ないし、私に言うことが、全部分からなかったのですごく難しかったです。

でも、ちょっとずつ生活を慣れて全てを楽しんでいました。新しい友達、新しい場所、新しい天気そして、新しい材料。全部をすごく楽しんでました。

5月

県費留学ともっと仲良くしたり家族会のイベントに参加始めました。そして友達と遊びに行ったりしました。

しかし一番好きなことは新しいレストランへ行ったり、新しい味を感じたりすることでした。初めて馬刺しを食べました。

福岡調理専門学校で色なことを学んだり、寮で作っていました。

6月

抹茶を作る場所と福岡の観光をしていました。県費留学と毎晩一番晩御飯を作ったまにものすごい美味しい料理を作りました。

段々天気暑くなって服も新しくしました。

調理専門学校でニッコーホテルに中国料理を食べに行きました。

7月

していしょうへのプログラムで、初めて色な国から来た子供たちと一日中、一緒に過ごしたり、楽しんだり、食べたりをしました。すごくいい思い出になりました。

夏休みも始まりました。水族館へ行ったり新しいレストランへ行きました。

8月

日本をもっと楽しみたかったから、ちょっと沖縄のきれいな海に行きました。観光会社を予約したので沖縄を色んな場所を観光しました。一番驚いたのは沖縄の水族館でした。

沖縄から帰ったら久留米の花火大会へ行きました。人が多くてすごく綺麗でした。

メキシコから来た友達が日本に来てガイドになりました。日本の色んな観光場所に連れて行きました。一つ目は福岡で観光しました。二つ目は広島へ行って美術館とお好み焼きを食べました。三つ目は神戸へ行って神戸ビーフを食べて港へ行きました。四つ目は大阪へ行って大阪城へ行ってお土産を買いました。五つ目と歌山へ行って和菓子を作りました。六つ目は京都へ行って色んな城へ行って伝統的な食べ物を食べました。七つ目は奈良へ行ってしかにあいさつして福岡に戻りました。忙しかったが日本を楽しめました。

旅行が終わって夏休みも終わりました。

9月

調理専門学校の試験を始めたから毎日勉強をしました。全部合格しました。

そして9月は私の誕生日です。県費留学とすごく楽しみました。

皆と一緒にあさひのビール工場へ行きました。

10月

寮の近くに住んでる人たちと運動会に行つて楽しみました。そしてハロウィンパーティーもやりました。料理を作りました。

調理専門学校でオークラホテルへ行つて洋食のコースを食べました。

11月

11月に世界大会が二つもありました。一つは福岡で二つ目は和歌山でありました。家族は皆来ました。すごくいい思い出を作りました。和歌山世界大会で大会宣言の担当だったか、らちよつと緊張していました。和歌山で高野山に一泊して野菜だけの食べ物を食べました。

この月も着物を着ておおほうり公園で写真と茶道をしました。

調理専門学校で文化祭があつてお母さんとおばさんは、私が今通つてる学校に来ました。そしてニューオータニホテルで最後のコースを食べました。最後のコースは和食でした。

12月

この月もすごく早く感じました。予定がたくさんあつて家族会のイベント、ドイスラゴスの忘年会と友達と食べに行つたり楽しい思い出を作りました。

カニの食べ放題とカキの食べ放題へ行きました。

寮で県費留学と家族会の皆様とクリスマスを過ごしました。25日はラウンドワンへ行つて夜ずっと遊びました。

家族会から和食のレストランを紹介してくれておせち料理を作りました。

31日はおじさんの家で家族と一緒にお正月を楽しみました。

1月

調理専門学校で、授業が普通どおりはじまりましたが、何か違うと感じました。このプログラムがあと少しで終わるからです。

考えたら一年間はすぐなくなる理由は毎日楽しい時間を過ごしたり、面白い人達と過ごしていました。これを思い出したら帰る気分は辛くなるけど最初から一年間だけって分かっていたから辛さを待っていました。のこってる時間にこの旅に出会った人に感謝の気持ちを伝えてあげます。

この機会で私のことをもっと知ってそして、私の未来にもっと大きなことを待っていると感じます。

最後に福岡県が、私たちにこの機会をあたえてくれてすごく感謝しております。そして、国際センターの皆様にも感謝しております。

One year of this program its almost finish and trying to write all the moments that I lived makes my feel sad, but it' s a good feeling because if I felt this way, it means that I have enjoy all the days since the beginning until today.

February

My experience with Fukuoka started in February when the program of student of the prefecture of Fukuoka came to Mexico and I have the honor to be with them and to show the students some beautiful places of my loved Mexico.

March

The most busy month, I have to finish my work in Mexico, say good bye to my friends and family, buy the presents for the program, clean my home and start thinking on what I would need in my journey. The 30 of march I went to the airport with my parents, ate my last tacos and started my journey. First to Paris, France where I meet my new friends of the program Koichi from Peru and Kevin from Bolivia. I didn' t know that all the kenpis of this year were at the same airplane. That was our beginning.

When we finally arrived to Fukuoka, I felt and instant connection, its something difficult to explain but I just felt it. We came to the dorm and started unpacking and getting used to our new home.

April

Thanks that the group of student of Fukuoka went to Mexico I all ready have some friends in Fukuoka and I wanted to meet them again. Fortunately in April the Sakura blossoms were beautiful so we went to see the Sakura.

Also was my first time in a University in Japan, I was afraid of these because I didn' t know how to express my self and it was very complicated for me to read and understand all the things that they were telling me.

But the days pass and I was feeling these place like my new home and I was enjoying everything. New friends, new places, new weather, new bed and new food. I was completely enjoying my stay in Fukuoka.

May

I started to became more close with the kenpis and starting to go to Kazokukai events. And going out with my friends.

But the thing that I was doing most was going to new restaurants and eating new thing and trying new flavors. I ate for the first time horse meat.

At the school I was learning a lot of things that I was trying to apply at the dorm.

Jun

I went to a field of green tea and visit a lot of places of Fukuoka. All the kenpis started to cook dinner together and sometimes we make very delicious things.

Also the weather started to became very hot. So we needed to change the clothes.

With the school we went to the Hotel Nikko and ate a gourmet Chinese meal.

July

The Shiteishouhei program started and we spend time with some kids of different country' s and share a lot of good memories with them. We were all the time with the kids and it was a very funny time.

The summer vacations started in this month. I went to the aquarium and to new restaurants.

August

We went to Okinawa to enjoy the beach and to have fun not only in Fukuoka. We took some tourist tour and travel all around Okinawa. One of the most incredible things that I remember was the aquarium and the beautiful beaches.

When we returned to Fukuoka, we went to watch de fireworks in Kurume. It was crowded but the fireworks were beautiful.

A friend of Mexico came to visit me at Japan and told me to be the guide, so I took her to a lots of places of Japan. First stop was Fukuoka and we travel in Fukuoka. The second stop was Hiroshima, we went to the museum and ate okonomiyaki. 3er stop kobe, we went to the port and ate kobe beef. 4r stop was Osaka, we went to the castle buy some presents. 5 stop was wakayama, we made some wagashi. 6 we went to Kyoto and went to all the temples and ate some tipical food. 7 stop was nara, we say hello to the dear and returned to Fukuoka. I was tired but I enjoy all Japan.

After all the journey my vacations came to and end.

September

I started with exams so I was studying every day, that' s why I passed my first exams with out a problem.

Also was my birthday. I spend a wonderfull time with all the kenpis at my birthday.

We went to Asahi company.

October

We all went to a undokai that goes all the persons that live near the place we are staying and have a wonderfull time. Also we made a Halloween party in the dorm and prepare all the food.

With the school we went to the Hotel Okura and ate western course.

November

The weather started to feel cold so we changed the clothes to a more warm. Also we experience a sumo training and ate with the sumo chankonabe.

In this month I have to sekaitaikai, one in Fukuoka and the other in Wakayama. My family came and I have a wonderful time with all. In wakayama sekaitaikai I have to said a speech and went to kouyasan for one night and ate vegetarian food.

Also we experience on this month the traditional clothes Kimono and took some pictures in Ohori Kouen.

With the school we had a bunkasai were it was opened to all people and my mom and aunt came to my school. And have my last course of food in new Otani hotel eating traditional Japanese food.

December

This month end very quickly, a lot of things with Kazokukai, bounenkai with Dois Lagos, dinner with my friends and a lot of good memories.

Also on these month I went to all you can eat of oyster and all you can eat of crab.

On the dorm we celebrate the Christmas with all the kenpis and the members of the kazokukai. On the 25 of December I went with some kenpis to the round one all night.

A friend of Kazokukai introduce me to a restaurant where I was able to prepare the traditional food of new years Osechi ryouri. The 31 of December I went to my uncle house in Goromaru and spend new year with all my family.

January

The school started as the normal days, but somethings are different because this programs its almost to the end.

Its very complicated to realize that one year finish to quickly when you enjoy every time and have good company every day, at the end you don' t want to return

to the normal days at your country but it was something that needed to happen. The only thing that I have to do on this remaining time is to thank every moment every person that made this year an amazing trip and amazing time of knowledge.

I think that with this experience I could be able to know more about me and realize that this opportunity on my life means that I have an amazing future waiting for me.

I would like to thank the government of Fukuoka prefecture to bring me this opportunity and all the staff of kokusai center that guide and take care of us for one year.

寺本君のこれまでの経歴等（関西での留学経験やメキシコで働いていたことなど）を事前に伺っていたので、無事に1年間、学校生活を過ごしてもらえればと思っていました。

学校生活の様子について

寺本君はとても朗らかで、周りとうまくコミュニケーションをとっていたと聞いております。彼の属していたクラスは、韓国や中国からの留学生、職業経験のある人、幅広い年齢層と、とてもバラエティーに富んでいましたが、誰とでもうまく馴染んでいけるのは、彼のもつ素晴らしい天性だと思います。

授業の様子について

実習では、何にでも興味を持って率先してやろうとする姿が、とても印象に残っているとのことでした。また何事に対しても一生懸命で、意欲や意思の強さに、実習教員が感心していました。

2月には、この1年学んだことの総括の場である「卒業料理展」を控えていますが、寺本君は日本料理で挑戦するようです。この1年をどのように感じて過ごし学んだのか、作品を見ることがとても楽しみです。

環境や習慣の違いは、特に大きな問題なかったようですが、日本語については、不安や苦労を感じていたのではないかと思います。（特に専門用語）

「食文化概論」という教科を受け持っている講師より、寺本君のレポートを見せてもらったことがありました。授業時間にテーマを与え、書かせたレポートで「英語で書いてもよい」と言うと、A3用紙に余白がないくらいびっしりと英文で書かれたレポートを提出してきたとのことでした。彼の持っている知識やメキシコのこと、料理のことをもっと伝えたかったのですが、日本語では難しいことも多く、もどかしい思いをしたのではないかと思います。うまくサポートが出来ず、申し訳なかったと思っています。

寺本君のこの1年間をみてきて、学校を休むことなく（出席率：92%）、何事にも興味を持ち、率先して行動する姿は、担任はじめ他の教員もとても感心しております。

卒業後は一度メキシコへ帰国し、再来日して日本での就職を考えていると聞きました。ぜひ、今までの頑張りを活かし、メキシコでまた日本で活躍することを楽しみにしています。

活躍できる人だと思います。



南加福岡県人会
堀 大志
西南学院大学留学生別科

(原文のまま)

福岡に住んでいる間、私は日本、自分自身、そして私の将来の目標について多くのことをわかるようになりました。楽しくて盛り上がった時はたくさんありましたが、同時に疲れた、つらい時もたくさんありました。年間を通して、西南大学で授業を受けながら日本の伝統的な行事を色々体験しました。例えば、佐渡、餅つき、そば作り、花火大会、夏祭りなど日本の季節的なイベントに参加しました。私たちは県費留学生として良い友人になり、お互いに良い関係を築きました。県費留学生として責任がたくさんあり、時にはとても難しいこともありました。諦めて自分の国に帰るべきだと思ったことがありました。友達や家族がいなくて、とても孤独に感じたことがありましたが、私はより良い人になる為に、福岡での生活を続けて一生懸命努力しました。最後に、私にとって、県費留学生として過ごした期間は、やりがいのある期間でした。日本で生活し、勉強できる機会を与えられた事を本当に感謝しています。

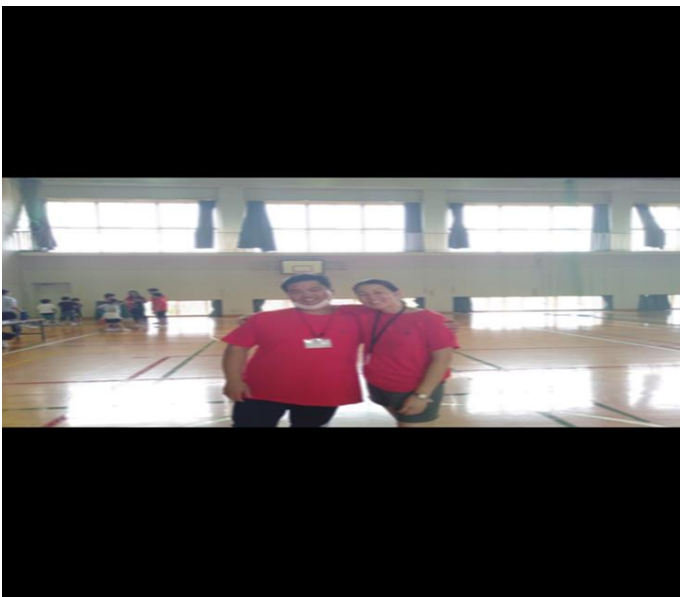
家族会や県人会などのイベントに参加することは、とても楽しく思い出深いものでした。。久留米花火大会に行って筑後川で花火を見たときの思い出は、印象深く残っています。作文と、添付している花火の写真はこの花火大会からのものです。私の記憶に残るもう一つの事は、竹の子堀とバーベキューです。家族会のメンバーに会ったのは初めてだったので、このイベントをよく覚えています。家族会会長の関さんの家でとても美味しいバーベキューをしてくれました。家族会員はとても寛大で思慮深い人々であり、県費留学生たちに福岡でたくさんの事をさせてくれ、私たちが抱えている問題を喜んで助けてくれました。感謝の印として、いつか家族会員をアメリカに招待したいと思っています。

また、県費留学生として、私たちは国際交流センターや福岡海外県人会を通じて開催されたイベントに参加しました。私がよく覚えているイベントの一つは、夏の間の子弟招へいと言うプログラムです。様々な国からの新しい人々と出会えたこと、そして元気な子どもたちと色んなイベントに参加できたことは素晴らしかったです。子弟招へいは責任がたくさんありましたが、とても楽しくてやりがいがある事でした。とても楽しかったもう1つの行事は、海外福岡県人会世界大会です。このイベントでは、県費留学生として各国を代表し、海外からの県人会員やお客様が楽しい時間を過ごしていることを確認し、福岡での滞在を楽しんでいただけるようにお世話をしました。世界大会では、多くの興味深い人々と出会ってたくさんの事を学びました。

西南大学に通った事はとても良い経験でした。受講したクラスから多くのことを学び、日本、ヨーロッパ、アフリカなどからの素敵な人々に会いました。いつか福岡で連絡を取り合い、また会えることを願っています。私の先生達はとても知的で親切であり、私が持っていたどんな質問でも喜んで助けてくれました。西南大学の学生やスタッフと関係を築き、いつかまた会えることを願っています。いくつもあるクラスはとても難しく、私のスケジュールは忙しかったにもかかわらず、すべてのクラスを良い成績で合格することができました。学校で諦めて西南を辞めたいと思ったことがありましたが、自分自身や家族を失望させたくはありませんでした。だから私は自分の心と人生を改善するために一生懸命働き、最終的には強くなりました。私の日本語はかなり上達し、私はできる限り学ぶようになりました。たくさんの漢字と語彙を学んだので、将来日本語を使える仕事を見つかけたいと思っています。

アメリカに戻ったら、県人会で積極的な役割をし、福岡での1年間の生活から学んだ知識のできる限りの手助けをしたいと思っています。重要なイベントに参加し、県会のメンバーと一生懸命に活躍し、もっと明るい未来の為に頑張りたいと思います。いつか、私は県会の役員職に就くことを決意し、関与するために最善を頑張り、将来の若いメンバーに影響を与えよう。

最終的に、4月から福岡に住んだことは超越的な経験でした。私は自分が誰であり、どのように問題に対処するかについてたくさんを学びました。私は日本に来てからかなり成長しました。私は日本で私を助けてくれたすべての人々に感謝しています。家族会のメンバー、私の県費留学生先輩、国際交流センターで働いている人々、そして私の2019-2020年の県費留学生同志です。私たちの国に戻る時が来たときはとても寂しいです。いつかまた会いたいと思います。この一年間本当にありがとうございました。







堀大志さんの日本語学習について

西南学院大学留学生別科において、2019年8月から12月までの60回の日本語授業を履修しました、堀大志さんについてご報告いたします。

日本語中級のクラスで、文法・会話・作文・語彙漢字学習等を通して、中級～上級の日本語能力レベルに到達しました。課題やテストには真剣に取り組み、90パーセントの学習成績を修めています。

学習態度も非常によく、教師のサポート役としてクラスを引っ張って行ってくださいました。クラスの中では、他の学習者が分からないときは英語で説明するなどして、周りに対する配慮も素晴らしいものがありました。自分の経験や考えをしっかりと述べ、クラスの知的活動を活性化してくれました。礼儀正しく、自分に正直で信頼できる学生です。

今後、日本とアメリカ、台湾各国の友好関係を担う人材に為って欲しいと思います。まだまだ可能性を秘めている人物だと思います。さらに経験を積んで今後の活躍に期待しています。